

議案質疑(2月26日) 江上博之議員

**市民合意なき  
名古屋城天守閣木造復元**

## 「2022年12月完成」は断念 「実施設計」予算も取り下げよ

2月26日の名古屋市議会本会議で日本共産党の江上博之議員が質問にたち、名古屋城天守閣木造復元のための実施設計費を来年度に繰越す議案を取り下げよう求めました。

### 現天守閣の解体予算は取り下げ

河村市長はこれまで名古屋城天守閣木造復元を2022年12月に完成させるとしていましたが、文化庁の許可が得られず、工事の延期を決めました。

これに伴い、市は今議会提案の今年度名古屋城天守各特別会計補正予算では、現天守閣解体に必要な構台等仮設工事予算9億6100万円を当初予算から減額計上。その一方で、木造復元のための実施設計予算1億3100万円は、来年度に繰越す方針です。

江上議員は「現天守を解体する予算を取り下げるのだから、その後の復元のための実施設計も、同じように取り下げるべきではないか」と質問。

これに対し観光文化交流局長は「文化庁をはじめ地元有識者と（復元工事を）相談・協議するための資料作成に必要」などと答えました。

江上議員は「実施設計は木造復元の設計のために必要な業務であって相談の資料作成のためではない」と批判しました。



### 石垣調査・保全・修復のメド立たず

さらに江上議員は、今年度に木造復元の実施設計ができなかった原因について、文化庁が求める石垣の調査を行えず、天守閣と石垣の接合部の基礎構造をどうするかの方角性も出ていないためではないかと追及。「今後のメドも立っていない以上、実施設計の予算は取り下げるべきだ」と質しました。

同局長は「指摘のとおり石垣調査等を反映して進める基礎構造の設計はできていない。しかし、今後、試掘調査を（名古屋城跡全体整備検討会議の）石垣部会に諮ったうえで行う計画。石垣調査を実施できるメドは立っているとの認識だ」などと言い張りました。



### 石垣有識者との約束にも反する

江上議員は、実施設計予算の繰越は、石垣の調査・保全・修復を最優先にするという、石垣部会の有識者との約束をもたがえるものだと批判。

同局長は「石垣調査の成果の見直し・分析を3月末をメドに進めており、それに基づいて、石垣部会の有識者に諮りながら、できるだけ早く保存方針を整理するので約束をたがえるものではない」と述べました。

### 経験者一人で石垣調査すすむのか

江上議員は石垣の調査体制についても質問。「名古屋城調査研究センターは人員体制を確保しつつあるものの、経験者は一人しかいない。調査は5年10年かかる。本丸搦め手馬だしの石垣修復だけで16年目に入っている。体制を整え、石垣保全に全力を尽くすべきだ」と主張しました。

同局長は「若い職員が経験を積んでいる段階。日々研さんにつとめセンターの能力を向上させる」と述べるにとどまりました。

### 市長は予算繰越の根拠を説明できず

再質問で江上議員は、今後実施設計が完成できる根拠を示すよう要求。

しかし河村市長は「石垣部会と目指す方向は一緒。文化庁に誠実に従う」と述べるだけで根拠は示せませんでした。

### 市民合意ない木造復元事業は中止を

江上議員は「期限を切った木造天守閣復元に市民合意はない。期限が伸びたのだから、（工期短縮がメリットとされる）技術提案交渉方式を導入した意味もない。（同方式のデメリットである）費用の見直しが必要だ」と力説。今回の実施設計繰越を取り下げ、市と建設会社との基本協定書も廃棄し、木造復元事業そのものを中止するよう求めました。